

# 安全データシート

SDS No.1021-0175

作成日 2016年 7月11日

改訂日 2020年 1月14日 1/4頁

## 1 化学品及び会社情報

化学品の名称 : (CRM) 塩素酸イオン  $\text{ClO}_3^-$ , 1000ppm  
製造者名 : SCP SCIENCE  
製造者住所 : 21 800 Clark-Graham Baie d'Urfé, Québec Canada H9X 4B6  
製造者電話番号 : 1-(514)457-0701  
製造者FAX番号 : 1-(514)457-4499  
提供者名 : ジーエルサイエンス株式会社  
提供者住所 : 東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー30F  
提供者電話番号 : 03-5323-6611  
提供者FAX番号 : 03-5323-6622  
製品コード : 1021-12001、1021-12002  
緊急連絡先 : ジーエルサイエンス(株)福島工場 品質保証課 電話 024-533-2244(代表)  
整理番号(SDS No.) : 1021-0175  
推奨用途 : 標準物質(日本産業規格(JIS)Q0030に定めるもの)  
使用上の制限 : 試験・研究用

## 2 危険・有害性の要約

GHS分類 : 分類できない  
健康に対する有害性 : 吸入または飲み込んだ場合有害である。眼、粘膜に接触すると刺激作用がある。長期暴露により、不快感、吐き気、頭痛などの症状を起こすことがある。  
物理的及び化学的危険性 : 通常取り扱いでは危険性は低い。  
その他の情報 : 内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託すること。

## 3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分 : 混合物

成分名	濃度	化学式	官報公示整理番号	CAS RN
水	塩素酸ナトリウムを 0.13%含有する水溶液	$\text{H}_2\text{O}$	設定されていない	7732-18-5
塩素酸ナトリウム		$\text{NaClO}_3$	1-239	7775-09-9

危険有害成分 : 塩素酸ナトリウム

## 4 応急処置

吸入した場合 : 新鮮な空気のある場所に移動し、安静保温に努める。気分が悪い場合は医師の手当てを受けること。  
皮膚に付着した場合 : 石鹼と大量の水で洗い流す。刺激が直らない場合、炎症を生じた場合には医師の手当てを受ける。  
目に入った場合 : 直ちに、コンタクトレンズを外し、少なくとも15分以上大量の水で眼を洗う。刺激が直らない場合、炎症を生じた場合には医師の手当てを受ける。  
飲み込んだ場合 : 口をすすぎ、大量の水で薄める。気分が悪い場合には医師の手当てを受ける。  
暴露した場合 : 医師に連絡すること。汚染された衣類は再使用する場合には洗濯すること。

## 5 火災時の措置

消火剤 : 本製品は不燃物であるため、周辺に適した消火剤を用いること。  
使ってはならない消火剤 : 棒状注水  
火災時の特有危険有害性 : 火災時に刺激性もしくは有毒なヒューム(またはガス)が発生するため、消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。  
特有の消火方法 : 移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。移動不可能な場合には周辺を水噴霧で冷却する。作業は風上から行い、必ず保護具を着用する。  
消火を行う者の保護 : 燃焼又は高温により有害なガスが発生するので、消火活動は風上から行い、必ず呼吸保護具を着用する。

## 6 漏出時の措置

## 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- : 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しないようにする。
- 風上から作業して、風下の人を退避させる。
- こぼれた場所はすべりやすいため注意する。

## 環境に対する注意事項

- : 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
- 汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。

## 回収・中和

- : 保護具を着用の上、漏出した液体をウエス、土砂等で吸い取り、可能な限り空容器に回収し、そのあとを多量の水を用いて洗い流す。

## 7 取り扱い及び保管上の注意

## 取り扱い

## 技術的対策

- : 屋内作業場における取扱い場所では、全体換気を行うか局所排気装置を使用する。
- 取扱場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

## 安全取扱注意事項

- : 本製品を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。
- 漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに蒸気を発生させない。

## 衛生対策

- : 取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。
- 指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。
- 休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではない。

## 保管

## 適切な保管条件

- : 容器を密閉し、直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管すること。

## 混触危険物質

- : 酸化剤、強酸性物質

## 安全な容器包装材料

- : プラスチック(ポリエチレン、ポリプロピレン)

## 8 ばく露防止及び保護措置

## 設備対策

- : 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、又は局所排気装置を設置する。
- 取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

## 管理濃度 作業環境評価基準

## 許容濃度

## 日本産業衛生学会

- : 設定されていない

## ACGIH TLV-TWA

- : 設定されていない

## OSHA PEL-TWA

- : 設定されていない

## 保護具

## 呼吸器の保護具

- : 保護マスク

## 手の保護具

- : 保護手袋

## 眼の保護具

- : 保護眼鏡

## 皮膚及び身体の保護具

- : 保護長靴、作業衣

## 適切な衛生対策

- : マスク等の吸着剤の交換は定期又は使用の都度行う。
- 取扱後は手、顔を良く洗いうがいをする。

## 9 物理的及び化学的性質

## 形状

- : 水溶液

## 色

- : 無色透明

## 臭い

- : 無臭

## pH

- : 7.0

## 融点

- : c.0°C

## 沸点

- : c.100°C

## 引火点

- : データなし

## 爆発範囲(上限・下限)

- : データなし

## 蒸気圧

- : データなし

## 蒸気密度(空気=1)

- : データなし

## 粘性

- : データなし

## 比重

- : 1.0g/mL

## 溶解性

- : 水と混和。

## オクタノール／水分配係数log Po/w

- : データなし

## 1 0 安定性及び反応性

安定性	: 適切な保管条件下では安定
危険有害反応可能性	: 通常の取扱条件において安定。
避けるべき条件	: 日光、熱、高温
危険有害な分解成分	: データなし

## 1 1 有害性情報

塩素酸ナトリウムの有害性はいずれも区分外もしくは分類できないとなっているため、混合物としてすべて分類できないとなった。以下には、塩素酸ナトリウムの有害性を記載します。

急性毒性(経口・経皮)	: ラット LD50>5000mg/kg(農薬登録申請資料,1973)
急性毒性(吸入;粉塵・ミスト)	: ラット LC50>5mg/L(農薬登録申請資料,1973)
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	: データなし
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	: データなし
感作性	: データなし
生殖細胞変異原性	: In vivo試験データはない。In vitro試験データは陰性(農薬登録申請資料(1990, 1991))。
発がん性	: データなし
生殖毒性	: 催奇形性試験で影響は見られなかったが、生殖能への影響が検討されていない(農薬登録申請資料(1990,1991))。

## 特定標的臓器毒性(単回ばく露)

: ラット経口単回投与試験(4.94~10.25g/kg)では死亡例にメトヘモグロビン形成によると推察される臓器の黒色化が認められ(農薬登録申請資料,1973)、ラット4時間吸入暴露試験(5.10mg/L)では鼻吻部および眼に刺激性変化が認められた(農薬登録申請資料,1990)ものの、いずれも区分2のガイダンス値(それぞれ300~2000mg/kg、1.0~5.0mg/L/4時間)における知見が不明である。

## 特定標的臓器毒性(反復ばく露)

: ラットを用いた13週間混餌経口投与毒性試験では、10000ppm以上の用量で赤血球数の減少やヘモグロビン値の低下などの毒性が認められたものの、区分2のガイダンス値(10~100mg/kg/日)を超える2000ppm(雄 118mg/kg/日、雌 119mg/kg/日)以下の用量では毒性徴候は認められなかった(農薬登録申請資料,1974)。他の暴露経路の影響は不明である。

吸引性呼吸器有害性 : データなし

## 1 2 環境影響情報

生態影響	: 甲殻類(オオミジンコ) EC50>100mg/L/48h(農薬登録申請資料,2004)
残留性/分解性	: 難水溶性ではない(水溶解度=1.00×105mg/L)(PHYSPROP Database,2005)
生態蓄積性	: データなし
土壤中の移動性	: データなし
オゾン層への影響	: いずれの成分もオゾン層破壊物質には該当しない。

## 1 3 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。 都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
汚染容器及び包装	: 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

## 1 4 輸送上の注意

国連番号	: 非該当
国連分類	: 非該当
海洋汚染物質	: 非該当
注意事項	: 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。 転倒、落下、破損がないように積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。

## 1 5 適用法令

毒物及び劇物取締法	: 劇物 指定令 第2条 No.18
労働安全衛生法	: 非該当
化管法	: 非該当
化審法	: 既存物質
消防法	: 非該当
船舶安全法(危規則)	: 非該当
航空法	: 非該当

1 6 その他の情報

引用文献

化学品安全管理データブック、化学工業日報社

16514の化学商品 化学工業日報社(2014)

独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム(CHRIP)

航空危険物規則書 第52版邦訳 等・他

記載内容の取り扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、濃度、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常の取り扱いを対象としたものなので、特殊な取り扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。